



たち

教育だよりの「たっち」は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。



第一回建替検討協議会のようす

第一小学校の現校舎は昭和33年から昭和35年に建設されたもので、既に築50年以上を経過して老朽化が目立つてきています。そして平成15年5月には建替えの請願が市議会で採択されており、市や教育委員会もその方針を尊重して建替えのマスタープランを作成しました。

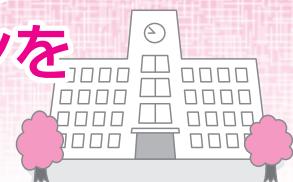
その内容は、保護者・地域の住民の方々や学校関係者などで組織する「第一小学校建替検討協議会」で検討していただいた原案に市の考え方を加えたもので、平成22年度はこのマスター プランに基づいて基本設計を策定していきます。



オープンスペース型の教室のイメージ

①「教育方法の多様化、今後の学校教育の進展に対応できる学校施設」として、例えば毎週異なる時間割や30分・60分などの変則的な単位時間に対応できる施設、少人数指導に対応できるオープンスペース型の教室の他

第一小学校の建替え 市民協働により マスタープランを 作成しました



建替えで目指すべき方向性

建替えにあたっては、一小の教育目標である「21世紀の社会に主体的に対応し、国際的な視野に立って進んで協調することができる心身ともに健康で人間性豊かな児童を目指す」を実現するため、「子どもたちの夢教師の夢が育ち、また創立140周年という歴史のある学校として誇りをもてる学校創り」を基本方針とします。

④「環境や景観に配慮した学校施設」として、校内LANや図書館のメディアセンター化を目指します。

②生涯学習をはじめとする、地域の諸活動を支える機能をもつ施設として、柴崎学習館と柴崎学童保育所を複合化し、異なる世代間交流の実現を目指します。また、地域の防災拠点として相応しい施設とします。

○多目的教室（学年集会やランチルームなどで使用可能）○学年ごとの昇降口（2階以上にても配置して外部階段で誘導）○子どもたちや地域と連携しやすい管理諸室（職員室、校長室、事務室、保健室など）○普通教室と特別教室の連携（低学年の児童にも興味をもたせられるような造りと配置）

- 東側配置案（一部3階建て）
校舎棟面積（柴崎図書館、学童保育所含む）
:6,500m²程度
体育館面積（学習館を含む約3,500m²のうち）
:1,100m²程度



※マスターplanでは校舎配置案について東西南北の4案を検討した結果、東側配置案を第一優先案としました。

教育センターを開設しました！

学校教育の振興、充実・
発展を図るため、平成 22
年5月6日に、立川市教育
委員会教育センターを、
立川簡易裁判所跡施設
(錦町4-1-19) の2階
に暫定開所しました。教
職員などを対象とした研
修室や教育資料室、学校
教育サポートセンターを設
置しています

第1
中學

回生東

「京駅伝」大会が
開催されました

力いい戦闘して取扱賞を受賞しました。男子チームは51チーム中46位でした。

卷之三

太へこ建闢 て效闢賞を受賞

学校教育の変革に向けた3つの視点

人権教育の推進 立川市教育委員会では、子どもたちを取り巻く、学校・家庭・地域社会の人権感覚を高め、子どもたちの豊かな心の育成を図ることを目指し、文部科学省人権教育総合推進地域事業の指定を受け、人権教育の充実を図っています。今年度も、「夢をつなぐ 心をつなぐ」をテーマに、市立小・中学校が連携を図った人権教育に全校で取り組みます。

研究活動の充実 市立全小・中学校が研究校の指定を受け、特別支援教育や外国語活動、学力向上などの研究に取り組んでいます。子どもにとって「分かる授業」や「興味・関心を引き出す授業」の実現を目指して、授業改善を進めます。

地域等との連携 開かれた学校づくりを目指し、保護者、地域の方々との連携を図り、学習指導における指導体制の改善を進めます。昨年度は、のべ1万4千人以上のボランティアの方々にご協力をいただきました。今年度も、多くの方々のお力をお借りして、地域等との連携を図った教育活動を充実します。

学校公開日

平成23年度小・中学校入学を予定されている方は、この機会に学校公開にお越しください。
なお、公開時間等については、各学校にお問い合わせください。(日程は変更する場合があります。)

問指導課 内線2497-2499

学校名	道德授業地区公開講座	運動会	セーフティ教室	その他
第一小学校	9月18日	10月2日	展覧会11月19・20日	
第二小学校	10月16日	10月2日	2月19日 音楽会11月19・20日	
第三小学校	10月14日		6月18日 学芸会11月19・20日	
第四小学校	1月29日	10月2日	学芸会11月5・6日	
第五小学校		10月2日	7月13日 作品展11月12・13日	
第六小学校	10月16日		6月23日 展覧会2月4・5日	
第七小学校		10月2日	6月29日 学芸会11月19・20日	
第八小学校		10月2日	10月28日 学習発表会11月12日 作品展11月13日	
第九小学校	2月4日		9月22日 学習発表会11月5・6日	
第十小学校	2月11日		7月16日 音楽会11月19・20日	
けやき台小学校	11月19日	9月25日	展覧会11月19・20日	
西砂小学校	10月13日	9月25日	6月23日 学芸会11月19・20日	
南砂小学校	1月22日	10月2日	12月21日 作品展2月18・19日	
若葉小学校	2月17日		7月13日 学芸会11月19・20日	
幸小学校	9月18日		10月1日 展覧会1月28・29日	
松中小学校	2月5日	9月25日	6月25日 造形展11月19・20日	
大山小学校	6月19日		10月15日 展覧会2月4・5日	
柏小学校	1月24日		11月13日 展覧会2月10・11日	
上砂川小学校	10月30日		6月25日 学習発表会11月26・27日	
新生小学校	1月19日	10月2日	11月25日 展覧会11月12・13日	
立川第一中学校	9月25日	6月12日	7月2日 合唱コンクール11月2日	
立川第二中学校	6月19日		7月10日 合唱祭10月30日	
立川第三中学校			6月11日 合唱コンクール10月28日	
立川第四中学校			6月17日 合唱コンクール10月29日	
立川第五中学校	7月10日		11月12日 合唱コンクール10月26日	
立川第六中学校		9月27日	11月27日 合唱コンクール10月23日	
立川第七中学校		6月19日	7月16日 合唱コンクール11月4日	
立川第八中学校	9月25日		12月24日 合唱コンクール10月22日	
立川第九中学校	1月19日		12月17日 音楽学習発表会10月21日	

※斜線部は平成23年度終了しています

平成23年度中学校入学保護者説明会

立川第一中学校	11月19日	立川第六中学校	11月27日
立川第二中学校	12月11日	立川第七中学校	1月15日
立川第三中学校	10月14日	立川第八中学校	12月17日
立川第四中学校	9月24日	立川第九中学校	7月7日
立川第五中学校	2月11日		

本校は言語環境を整える取組を進めています。これは、例えば「言葉を大切にしよう」というような一般的な取組を超えて、「言葉のパワー」を引き出します。言語活動の活性化を図り、思考力向上につなげようとするものです。これまで、落語家や国語研究者を招いて、言語の魅力や言語の機能を学習してきました。また、各教科の授業で、どのように言語活動を取り入れると効果が上がるか、にも取り組みます。さらに、読書活動は、学校の言語環境に欠かせない役割があることから、学級文庫の設置や

各教科からの推薦図書を紹介するなど、読書推進活動も行っています。そして、現在は、上級生が下級生に勧める本の一覧作成を進めているところです。機会あるごとに「標語を作ろう」や保護者にも協力をお願いして、「心が動いた言葉」などの収集も行っています。今年10月6日(水)に、発表する予定です。是非、ご来校くださり、アドバイスをいただけます。お預りしていただけます。

立川第一中学校は、毎年

社会との接点「職場体験学習」

立川第六中学校

本校では、「総合的な学習の時間」の中で、2年生で実施する職場体験学習を、「社会を知り、社会より学ぶ貴重な場」であります。子どもたちが自信をもつて「私のふるさとは砂川であります」と言える学校でありたいと願いが込められています。

本校では、「すべての生徒の学びを保障するために」をテーマとし、東京大学大学院の佐藤学教授を中心に、全世界で広がる「学びの共同体」の理念を授業に取り入れた研究を推進してまいりました。昨年度の研究発表会では、生徒の変容、学力の向上を成果として報告ができました。

中学校では、教科の専門性が壁となり、教師間の研究が深まりにくい状況にあります。そこで、指導技術の研究だけでなく、研究発表会では、生徒の変容、学力の向上を成果として報告ができます。

中学校では、教科の専門性が

壁となり、教師間の研究が深ま

りにくい状況にあります。そ

こで、指導技術の研究だけではなく、

研究発表会では、生徒の変容、

学力の向上を成果として報告

ができます。

現在、新たに研究課題を「学

び合い」として、さらに研究を発展さ

れます。

「学びの共同体」の理念を

実現していくために、

教科の専門性が壁となり、教

科間の連携づくりを大切にし

ために、研究課題を「学

び合い」として、さらに研究を発展さ

れます。

「学びの共同体」の理念を

実現していくために、教科の専門性が

壁となり、教科間の連携

づくりを大切にした

めに、研究課題を「学

び合い」として、さらに研究を発展さ

れます。

「学びの共同体」の理念を

実現していくために、教科の専門性が

